

被災地へ支援キャラバン

■東部重工、震災後に初出荷

東部重工業(千葉県浦安市、吉田牧男社長)は、東日本大震災の被災地に支援キャラバンを派遣する。アフターサービスの一環として取引先が所有するグラブバケットの復旧作業や、資機材や生活物資の輸送に当たる。同社はまた、周辺道路の地盤液状化で影響を受けていた浦安工場から3月23日に初出荷を果たした。

主力の浦安工場は周囲の地盤から独立した耐震構造をとり2009年10月に竣工したばかりで、設備への影響はなかった。ただ、断水や事務所内で設備が倒れるなどの被害があった。一方、浦安市は震災の影響で地盤の液状化現象が発生し、工場周辺では道路がダメージを受けた。また、計画停電中は操業停止を余儀な

くされた。その後、道路は復旧し、IHIMU向けにグラブバケットを震災後初出荷した。

同社は浦安工場周辺道路の復旧を受け、4月3日から東北地方の被災地区の顧客を対象に支援キャラバン隊を派遣する。キャラバン隊は2チームで編成され、1つは佐世保工場から3人が参加する、全社挙げての支援体制を敷く。本社と浦安工場から専用サービスカーで陸路被災地に遠征し、資機材や生活物資を届ける。

現地で被害状況を把握した上で顧客と直接アフターサービスについて協議し、主に港湾で使用されているグラブバケットの復旧作業を行い今後の支援につなげる。訪問予定先

は青森、岩手、宮城、福島、茨城の各県で約40カ所。東部重工は船舶用グラブバケットのトップシェアメーカーだが、港湾にも多くの製品納入先があり、キャラバンを通じ積極的に被災地を支援する。
